

梅田貨物駅の百済駅移転問題

「大気状況事実と異なる」

住民側が
実態調査
基準超す可能性指摘

梅田貨物駅（大阪市北区）の機能の半分を百済駅（同市東住吉区、平野両区）に移転する問題で、移転後の大気への影響が国の環境基準を上回る可能性があることが、住民らが実施した調査で分かった。二十八、二十九の両日、市内で開かれた工事説明会で住民側が指摘した。

策目標として位置付けている。

工事説明会では完成予想図が公開され、九月から二〇一〇年までの工事概要が報告された。

持することが望ましい「基準として設定。法的拘束力はなく、行政上の政

工事主体者の鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、機能の移転によって「周辺環境に著しい支障を及ぼすことはない」と説明。大気の状態を測る指標の一つである二酸化窒素の大気中の濃度について、環境基準（日平

均値の年間98％値）の四〇・六〇ppb（ppbは十億分の一）を超えないとしてきた。

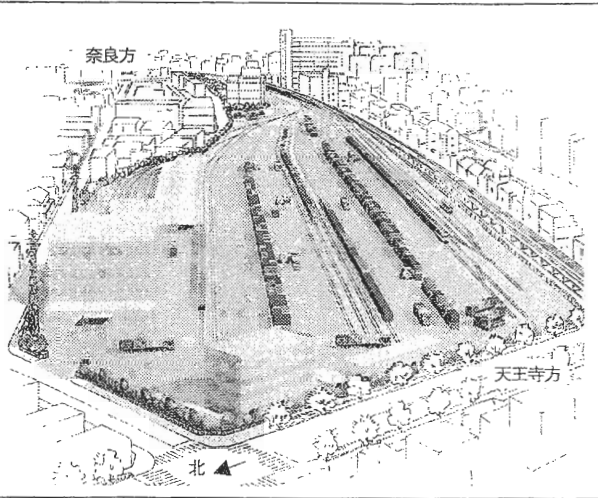
これに対し、移転に反発する住民らは数値の計算に使われた車の平均速度を疑問視。機構側は時速三十一・四十キロで計算し

ていたが、信号や渋滞で停車することを考慮する「事実と異なる」として実態調査を実施。結果は十一・二十キロ台だった。一定の速度を下回ると排気ガスの量が増えるため、環境基準値を時速二十キロで住民側が計算し直した結果、七カ所の調査地点中、三カ所が六〇・五ppbだった。

機構側は「住民側の計算に間違いがあってはいけないので、持ち帰った上であらためて報告する」と回答した。

実態調査などを行った中村茂司さん（五十）は「大気に関して安全と言われてきたのに基準値を超えていてショック。大阪府が環境アセスメントなどでしっかり対応してほしい」と訴えていた。

環境基準は環境省が「人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維



工事説明会で公開された百済駅の完成予想図

奈良方

天王寺方

北